

会議議事録

会議名	平成 28 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 28 年 7 月 25 日 (月曜日) 13:00~15:00 (2.0h)
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：須貝和則 (国立国際医療研究センター 診療情報管理室室長)、山室 靖 (東京衛生病院医事課課長)、横堀由喜子 (日本病院会学術部長)、渡辺元三 (聖母病院医事課課長) (計 4 名) ②本校委員：橋本正樹 (校長)、藤野 裕 (参与)、宮下明久 (事務局長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科学科長)、三宅かおり (教務委員長)、河村和恵 (医療事務教科系研究会リーダー) (計 9 名) ③事務局：手塚理恵子・高橋 稔 (計 2 名)、(参加者合計 15 名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付： □資料 1：平成 27 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会議事録、□資料 2：平成 27 年度重点目標の年度末点検報告、□資料 3：医療秘書科・医療マネジメント科・専攻科の平成 27 年度学科運営計画の年度末点検報告、□資料 4：医療秘書科・医療マネジメント科・専攻科の平成 28 年度生カリキュラム ②本日配付： □資料 5：平成 28 年度委員会名簿、□資料 6：平成 27 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 28 年度校務分掌、別添 B：平成 28 年度学事日程、別添 C：平成 28 年度オープンキャンパス日程、別添 D：平成 28 年度クラス担任一覧、別添 E：平成 28 年度の進路決定状況、別添 F：平成 28 年度 W S C P の年間計画例)、□資料 7：平成 27 年度第 2 回委員会における説明の進捗状況、□資料 8：特別講演会実施報告、□資料 9：平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法、□資料 10：平成 28 年度学科運営計画 (医療秘書科、医療マネジメント科、専攻科)、□資料 11：平成 28 年度教員研修計画・実績、□資料 12：平成 29 年度生カリキュラム (医療秘書科、医療マネジメント科、専攻科) 案、□資料 13：医師事務技術専攻科関連資料 ③本日配付印刷物資料： □平成 29 年度入学案内書・募集要項、□平成 28 年度講義要項 (2 学科、1 専攻科)、□平成 28 年学生生活ガイド、□2016Challenge 就職活動ノート ④回覧資料：□1：平成 26 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の年度末点検報告、□2：平成 27 年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検中項目) □3：平成 27 年度活動の自己評価報告書 (点検大項目)、□4：平成 27 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の進捗報告、
委員長	橋本校長
議題等	1. 今年度委員の確認及び本日出席の新任者紹介 (説明者：事務局高橋) 事務局より、資料 5 に基づき今年度委員の確認が行われた。また、異動により村山由

美医療秘書科副学科長と三宅かおり教務委員長、河村医療事務教科系研究会リーダーが新任、委員会の事務局に学務課の手塚が加わったことについて報告が行われた。

2. 校長挨拶

橋本校長より本日出席の企業等委員の方々への謝辞の後、本校は、看護科の開設を契機に「医療と福祉の専門学校」として学科間の連携を強化し、他校との差別化を図っていく。また、社会人、外国人を対象とする教育の可能性を視野に入れつつ、平成 30 年度以降の 18 歳人口急減期に対応するための学科再編計画に着手している。今後も、その流れの中で引き続き教育の可視化、教育の質保証に取り組み、「2-40 プロジェクト」に示した「選ばれる学校（プレステージ・スクール）」を目指していく。

今年度は、本委員会において提言された医療事務の仕事の高度化に基づき、医師事務技術専攻科を来年度開設に向けて準備を行っており、後ほど詳細をご説明する。

また、次の時代に向けた新たな動きを具体化していく年という認識のもと、業務改善を事業計画の大きなテーマとした。本日も教育課程編成委員会の先生方から医療事務分野の教育活動について、外の視点からの貴重なご意見を伺いたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認

最初に本委員会の議事録の作成方法について事務局より説明が行われた後、橋本委員長より、前回議事録（資料 1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 平成 27 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成 27 年度重点目標の年度末点検報告（説明者：橋本校長）

資料 2 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 医療事務分野各学科の平成 27 年度学科運営の年度末点検報告（説明者：石川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

資料 3 に基づき各学科の報告が行われ、確認、了承された。なお、診療情報管理士の受験資格に関して質問があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成 27 年度第 2 回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長、事務局高橋）

資料 6（別添 A～F）に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(4) 平成 27 年度第 2 回委員会における説明の進捗状況（説明者：宮下事務局長、石川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

資料 7 に基づきそれぞれ報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(5) 特別講演会実施報告（説明者：黒田学科長）

資料 8 に基づき、に講師をお願いした講演会を 5 月 6 日に開催したことについて報告

が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）
資料 9 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成 28 年度の教育活動と学科運営、計画等について

(1) 医療事務分野各学科の学科運営計画と各学年のカリキュラム、教育のポイント（説明者：石川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

資料 4、資料 10 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 平成 28 年度教員研修計画・実績（説明者：三宅教務委員長）

資料 11 に基づき以下の研修について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

- ・専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施する研修

- ・授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施する研修

7. 平成 29 年度生カリキュラム編成等について

(1) 医療秘書科、医療マネジメント科、診療情報管理専攻科（説明者：石川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

資料 12 に基づき報告が行われ、確認、了承された。なお、診療情報管理士の合格状況、退学防止への取組、中長期的な計画、教員研修、医師事務作業補助者他について質問があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

(2) 医師事務技術専攻科（説明者：橋本校長）

資料 13 に基づきカリキュラム、進め方他について報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

本委員会は年 2 回の開催であり、次回は 2 月を予定している。10 月に各委員の予定をお伺いして日程調整を行う。テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

①平成 28 年度学科運営の進捗報告

②平成 28 年度カリキュラムと教育の実施状況報告

③平成 29 年度カリキュラムと教育の進め方について

最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

別紙

平成 28 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 27 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成 27 年度重点目標の年度末点検報告

○橋本校長より、資料 2 に基づき以下の報告が行われた。

- ・昨年度挙げた 3 つの重点目標（① T P C の育成と強化、② 退学防止、③ 教員研修）については、十分に成果が上げきれていない状況にある。

① T P C の育成と強化は、教育研究誌による呼びかけと情報共有、アクティブラーニングの取り組み、年度初めのオリエンテーションの場などを活用して、引き続き工夫しながら進めていく。28 年度は校務分掌の中に新たに募集広報協議会と進路指導協議会を設置した。教員と事務職員が連携を深めて、一緒に学生を育てていくことを推進していきたい。

② 退学防止については、3 月末現在で退学者が 48 名、退学率は 5.9%（前年 4.5%）となり、目標の 3.5% は達成できなかった。医療事務系の学科で 1 つのクラスから 7～8 人の退学者が出るケースがあったが、介護福祉科は退学者が少なく、学習継続率が非常に高い。今年度もミスマッチの防止、退学事例の共有等により、退学防止に努めたい。

③ 教員研修のうち授業公開は常勤教員の中で数年試みているが、なかなかうまく働いていない。透明性や授業の見える化につながるものであり、教職員が互いに学び合っていくことは必要だと思うので、今後もこの方向で進めていく。さらに、学内で年 2 回やっている教職員研修会、学外の研修会への参加、さらには教育研究誌等に自分の考えを発表するという流れを推進していきたい。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(2) 医療事務分野各学科の平成 27 年度学科運営の年度末点検報告（説明者：石川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

○石川医療秘書科学科長、黒田医療マネジメント科学科長、菊池診療情報管理専攻科長より、それぞれ資料 3 に基づき以下の報告が行われた。

(ア) 医療秘書科

- ・学生サポーターの充実については平成 29 年度カリキュラムに導入する方向で考えている。
- ・授業公開は学校行事や学科特有のスケジュールと重なり実績を残せなかったが、今年度は研修の意味合いも込めて前向きに取り組んでいきたい。
- ・医師事務技術専攻科の設立に向けて学生にわかりやすい説明を行っている。
- ・出席不足による単位未取得から退学に至った学生が目立ったが、早急な対応で退学を未然に防ぐため、新年度は保護者を取り込んだ形の取り組みがスタートしている。
- ・検定等の実績はほぼ目標どおり進んでいる。専攻科設立に向けてさらに上位の目標を設定していこうと考えている。

(イ) 医療マネジメント科

- ・担任、教員間の連携においては、欠席が多い学生、学業意欲が希薄な学生、社会性が乏しい学生等が若干見受けられるので、その辺の対応をより強化していきたい。
- ・検定取得状況については目標をほぼクリアしている。下回っている部分を強化していきたい。
- ・就職状況について内定率は 100%となったが、平成 27 年度は診療情報管理専攻科への進学を希望した

ものが多く、就職する学生数が少なかった。平成 28 年度は求職者が倍になったので、一人一人により細やかに対応していく必要があると考えている。

- ・退学状況については、医療マネジメント科でも目標の 3.5%以下を達成することができなかつた。28 年度以降の課題の一つと考えている。

(ウ) 診療情報管理専攻科

- ・診療情報管理士認定試験の結果は、最低目標の 80%を下回り 76.2%となった。専門領域が以前より難しくなっているので、次年度はその対策の授業等をふやしている。
- ・退学率は目標の 3.5%を達成することができなかつた。対策として、従来は誰でも 3 年次に進めるため就職もままならない学生も残ってしまう状況があったが、校長にお願いして入試規程の整備をしてもらった。さらに、目的意識がない学生に対しては必ず面談をすることにしており、今のところ退学者は出ていない。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(診療情報管理士の受験資格に関して)

質問・意見	回答
<input type="checkbox"/> 専門学校生にとって診療情報管理士の受験資格はどうなるのか。 <input type="checkbox"/> 普通に出席していれば取れるものか。試験は通信教育よりも厳しいのか。	<input type="checkbox"/> 日本病院会のカリキュラムを取れていることが大前提にある。2 年次、あるいは 1 年次の段階で単位未取得の学生は取れないことになる。 <input type="checkbox"/> 試験の結果、指定科目の成績に不可があると受験資格は付与されない。6 割取れていれば可評価。不可の場合でも再試験があるので、真面目に勉強していれば単位は取れるはずだが、落ちる学生もいる。 <input type="checkbox"/> モチベーションや学力の点で厳しい学生もいるので、合格率に厳しい数字が反映してくる。落ちた学生に対するフォローが新たな課題として出てきている。

(3) 平成 27 年度第 2 回委員会以降の主な経過 (説明者：宮下事務局長、事務局高橋)

○事務局高橋、宮下事務局長より、担当する項目について、資料 6 (別添 A～F) に基づき平成 27 年度第 2 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 平成 28 年度の組織運営関連

- ・平成 28 年度校務分掌 (別添 A) ・平成 28 年度学事日程 (別添 B)
- ・平成 28 年オープンキャンパス日程 (別添 C) ・平成 28 年度クラス担任一覧 (別添 D)

2. 自己点検・自己評価関連

- ・学校関係者評価委員会において以下を報告。
- ・3/25 平成 27 年度第 3 回委員会
平成 26 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の年度末点検報告 (回覧資料 1)
- 平成 27 年度重点目標の年度末点検報告 (資料 2)
- ・6/25 平成 28 年度第 1 回委員会

平成 27 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検中項目）（回覧資料 2）

平成 27 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）（回覧資料 3）

平成 27 年学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の進捗報告（回覧資料 4）

平成 28 年度重点目標と達成するための計画・方法（資料 9）

3. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・ 3 月末の退学（除籍を含む）データ。
- ・ 平成 28 年度からは個人情報削除した「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学内ネットに掲載して、指導、支援に必要な情報を共有して退学防止に役立てている。

(2) 就職活動の状況

- ・ 各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる
- ・ 平成 27 年度進路決定状況（別添 E）
- ・ 平成 28 年度 W S C P の年間計画・医医療秘書科 1 年、医療マネジメント科 2 年の例（別添 F）

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(4) 平成 27 年度第 2 回委員会における説明の進捗状況

(ア) 就職関係

○宮下事務局長より、資料 7 に基づき以下の報告が行われた。

- ・ 大学の附属病院や大規模病院に向けた対策について、昨年度は大学の附属病院に 5 名（正職員 3 名、契約職員 2 名）の内定状況だったものが、今年は既に 8 つの大学病院に 34 名が応募している。内定は今のところ 3 名だが、担任の先生方からの口添えやキャリアサポートからの勧め等の対策が実を結びつつある。

(イ) 医療秘書科

○石川学科長より、資料 7 に基づき以下の報告が行われた。

- ・ サポーターシステムは、T P C の育成・強化という部分を含めて、29 年度カリキュラムの中に配置する形で進んでいる。
- ・ 退学者に関しては保護者を巻き込んだ形で幾つか継続している事例があり、今のところ順調に推移している。
- ・ 検定に向けての時間割前倒しは、平成 28 年度学科運営のところでクォーター制という文言で示しているが、いろいろな要素がリンクしているためまだ要検討となっている。
- ・ 医療と福祉の強い結びつきが今後予想される中で、平成 29 年度は「介護保険の基礎」を共通科目として配置し、履修してもらう形で進めている。

(ウ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料 7 に基づき以下の報告が行われた。

- ・ 教員を対象とした病院の見学・研修については、ここにおられる渡辺課長にお骨折りいただき、聖母病院さんで 3 月 11 日と 17 日に分けて実施した。ここでリサーチさせていただいた内容を授業や学生指導に生かしていきたい。

(エ) 診療情報管理専攻科

○菊池専攻科長より、資料 7 に基づき以下の報告が行われた。

- ・ 診療情報管理士の不合格者（学生、卒業生）への対応については、診療情報管理士に関する授業科

目の開放を検討している。

- ・がん登録の資格試験は病院勤務者のみが受験可能ということが確認をされた。在学中の受験は断念せざるを得ない。

(オ) 医師事務作業補助に関して

○橋本校長より、資料7に基づき以下の報告が行われた。

- ・募集形態としては、専攻科名は医師事務技術専攻科で1年制の専門課程。医療秘書科・医療秘書コースの卒業生と医療マネジメント科の卒業生を対象とするプラス1年の教育となる。

(カ) インターンシップの途中辞退に関して

○石川学科長と黒田学科長より、資料7に基づき以下の報告が行われた。

- ・今年度設置された進路指導協議会でインターンシップのあり方や開始時期等を懸案事項の一つとして取り上げる予定になっている。
- ・内定辞退の原因は、本人、内定先ともにあったのかと思う。就職活動における企業研究をより緻密に行わせる必要性を感じた。
- ・進路指導協議会等と協力しながら、できる限りインターンシップの件数を減らし、勤務開始時期を後ろのほうに持っていくように取り組んでいきたい。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(5) 特別講演会実施報告

○黒田学科長より、資料8に基づき以下の報告が行われた。

- ・医療マネジメント科で1年生を対象に特別講演を行った。近年、病院という職場、病院で働く具体的なイメージが湧きにくいという学生が多いことから、今後2年間専門学校でどのように学び、最終的に医療機関にどう就職をしていくのかというイメージづくりを目的として行っている。
- ・概ね好評ではあったが、日常の授業や指導、キャリアデザイン等でさらに継続してイメージづくりをしていきたい。

※同様の講演会は医療秘書科においても実施済である。(事務局注)

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

5. 平成28年度の重点目標と達成するための計画・方法について

○橋本校長より、資料9に基づき以下の説明が行われた。

- ・平成28年度は、専門学校部門の事業計画の一つとして業務改善を掲げている。
- ・学科を再編した中で、事務職員と教育職員が連携しながら進めていく視点から幾つか新しい委員会等も立ち上げた。
- ・具体的には、募集広報協議会、進路指導協議会を置き、各学科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）、卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）を改めて確認し、学内で共有することであり、それに基づいてTPCの育成・強化の具体化を考えていきたい。
- ・退学防止については、2年続けて数字が悪くなっている状況の中で、担任、カウンセラー、保健室（昨年11月以降担当者を再配置）の連携で問題のある学生を早期に発見して、一緒に対策していくことを地道に進めていきたい。
- ・さらに、これまでの退学防止事例記録、学籍異動の記録等を活用して、指導の難しいケース等について

での事例を研究し、次に生かしていきたい。今年度、介護福祉科において退学の申し出があった者をとどませたというケースがあったが、早速退学防止事例記録として残し、どのようにして防止できたかを共有していきたい。

- ・新たに立ち上がった進路指導協議会では、オリエンテーションプログラムから卒業に至るまでのキャリアデザインというホームルームの科目の中で、退学を防止しつつ卒業まで持つていく。
- ・モチベーションがはっきりしないまま入ってくる学生にいかにもモチベーションや学びの喜びを与えるかも課題としていきたい。ミスマッチを防ぐ意味で方針を明らかにして再度確認することと、就職までのイメージをしっかり持たせることをきちんとやっていきたい。
- ・教員研修等は、常勤教員全員参加で、期間を定めて進める。教育研究誌には事務職員も含めて投稿を促していく。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

6. 平成 28 年度の教育活動と学科運営、計画等について

(1) 医療事務分野各学科の学科運営計画と各学年のカリキュラム、教育のポイント

○石川医療秘書科学科長、黒田医療マネジメント科学科長、菊池診療情報管理専攻科長より、それぞれ資料 4 と資料 10 に基づき以下の報告が行われた。

(ア) 医療秘書科

- ・常態化している「前倒し授業」の解消に向けクォーター制の可能性を探るほか、インターンシップの開始時期の検討を進めていきたい。
- ・退学防止対策については、出席不良状態が顕在化した段階で早めに保護者を巻き込む指導体制を進めている。例えば、今年度は保護者付き添いで登校が 3 例あり、その後 1 人で登校できるようになった学生がいる。
- ・インターン中止（ドロップアウト）対策としては、できる限り詳細な情報を学生にアナウンスしてインターンに出させることと、インターンの開始時期を遅らせて 11 月、12 月の検定までは学業に専念させる体制についても取り組んでいきたい。

(イ) 医療マネジメント科

- ・学生のコミュニケーション力、リーダーシップ・マネジメント力については、日常の授業の中や実習指導、年間の行事等の流れの中で指導していく。
- ・就職支援対策として、キャリアデザイン、キャリアサポートプログラムをベースにしながら、細やかに就職支援を行っていきたい。
- ・検定取得目標の達成に向け、今年度も同様に実施していく。
- ・退学者対策としては、教員間の連携、学生との細やかなコミュニケーションにより、目標達成を目指したい。

(ウ) 診療情報管理専攻科

- ・T P C 育成について、診療情報管理学会国際大会に複数グループの発表を準備している。
- ・前年度未達成だった診療情報管理士認定試験の合格率を 8 割以上として進めている。
- ・退学防止については、専攻科に進んだ 4 月以降、8 割方の学生と面談をしているので、このまま 1 人も欠けることなく卒業を目指したい。ただし、最終的に卒業できないために退学という例が 2 名ほど出る可能性がある。

(2) 平成 28 年度教員研修計画・実績

○三宅教務委員長より、資料 11 に基づき以下の説明が行われた。

- ・専攻分野の実務に関する実習と、授業及び学生に対する指導力等に関する研修の 2 つに分けて、現在、決定している部分までを記載している。
- ・研修の案内により、教務委員会から対象の全教職員に向けてメールで情報を流し、申し込みがあった場合は教務委員会が仲介して申し込みをして、後日レポートを出してもらおうシステムになっている。
- ・積極的に外部の研修に参加したいという姿勢はあっても、教員の担当授業コマ数が非常にタイトで、平日の研修に参加できるような状況ではないので、何らかの仕組みが必要だと感じている。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

7. 平成 29 年度生カリキュラム編成等について

(1) 医療秘書科、医療マネジメント科、診療情報管理専攻科

○石川医療秘書科学科長、黒田医療マネジメント科学科長、菊池診療情報管理専攻科長より、それぞれ資料 12 に基づき以下の報告が行われた。

(ア) 医療秘書科

- ・開講時期を移動した教科が幾つかある。
- ・内容的な変更では、今までの「書く技術・伝える技術」という科目名を「社会人基礎力（仮称）」に変更し、もう少し広い範囲や要素を入れる。
- ・「介護保険の基礎」は、医療と福祉との関連性が深まっていく中で、共通科目として福祉事務コースから外に出した。
- ・必修選択 3 教科を網かけしてあるが、3 番目のアクティブラーニングは T P C の強化育成を目的に P D C A サイクル的な部分を学生に体験させる。医療秘書実務Ⅱ、医事コンピュータ実務Ⅱには、今度新設される専攻科を見据えた形で置いている。
- ・福祉事務コースの中の「生活支援技術」は、福祉的な要素を実技的な部分でも習得できるように、「看護補助技術」とリンクしたような形で新規に導入している。

(イ) 医療マネジメント科

- ・社会人化教育の前段階である就職試験対策に力を入れた。
- ・網かけをした 7 科目の中で、特に「社会人基礎力」、「プレゼンテーション」等については、文章の書き方、話し方、プレゼンテーション、ディスカッション等を含めて、いわゆる就職試験対策をこの中でやっていければということで導入した。
- ・1 年次は負担を減らすためにカリキュラム数を少なくしてきたが、でき得る限り 1 年次と 2 年次のバランスはとっていくことにした。
- ・早期のインターンシップはできるだけ防ぐという方針で、少しでも是正をしていこうという思いで、若干カリキュラムの組みかえを行っている。
- ・「電子カルテ演習Ⅰ」、「D P C 基礎演習」等は、必要性を考慮して授業として導入した。
- ・「医療サービスと品質マネジメント」、「コミュニケーション技術」は、自分から発信できる力を養うことを目的としている。「医療サービスと品質マネジメント」はカリキュラムから外していたが、今回復活させた。

(ウ) 診療情報管理専攻科

- ・「医師事務作業補助実習」は新学科に移行することとし、60 時間ほど減っている。「仕事の安全と品質管理Ⅰ」を削り、「診療情報管理演習」ということで専門領域の受験対策講座のような授業を設けて

いる。

(2) 医師事務技術専攻科

○橋本校長より、資料 13 に基づき以下の説明が行われた。

- ・この教育課程編成委員会において提言された医療事務の仕事の高度化に基づき、医師事務技術専攻科を来年度から開設することになった。
- ・医師事務作業補助者の資格を取るというだけではなくて、実際に仕事ができる人材をつくっていくことを目標としている。
- ・出願の母体となる学科は、医療秘書科の医療秘書コースとし、医療マネジメント科の中からも希望者を募る。
- ・カリキュラムによっては従来の教員では対応できないものもあるので、早目に調整していく予定である。専門課程は 800 時間以上の授業時間が必要となるが、診療情報管理専攻科とほぼ同じ年間 930 時間を想定している。
- ・カリキュラムは、特に医療事務の現場の先生方からご意見をいただいて、まだ間に合うものについては修正を加えたい。本日、この場での積極的な意見交換をお願いしたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(大学病院への就職に関して)

質問・意見	回答
□特定機能病院が医師事務作業補助加算を取れたことも理由の一つではないかと思うが、大学病院への就職がふえた理由は分析されているか。	□前年度が少なかったため、学科の教員とキャリアサポートのメンバーとで打ち合わせをして、積極的に紹介をしていくような働き掛けをした。

(医師事務技術専攻科に関して)

質問・意見	回答
□医師事務技術専攻科については、やる気のある学生だけを集めて英才教育をして、就職先で活躍すれば先生の評価も上がり、ぜひこの学校から採用したいということになる。保険の知識、施設基準、先生が書くカルテの部分まで求められると思うので、少し医師の領域まで入り込めるぐらいの意識を持っている学生を育ててもらえればと思う。	□ご意見として伺った。

(退学対応、診療情報管理士他に関して)

質問・意見	回答
□診療情報管理士の合格率はちょっと低いかなと思った。指導面で学校に来られない学生まで考えるというのは、先生方にとって非常にきつい話だなと思う。学校に来てからフォーカスを当てた教育にしないと低レベルな話になるのではないかと感じた。	□ご意見として伺った。
□早稲田速記さんはよくやっていると思う。退学率の問題は、このぐらいまでいってれば十分ではないか。それよりも、先生たちが自分の勉強をする時間がない	□ご意見として伺った。

<p>というのはいかかなものかと思う。</p> <p>例えば、診療情報管理学会や医療秘書学会だけではなく、一般的な病院の状況を見たり、ホスピタルショーに行ったりすることで先生たちは刺激を受けるので、そういう時間をつくられたほうがよい。</p> <p>菊池先生が言われていた面談については、合わない人を無理やり病院に送り込んで問題になるよりは、今の時点で方向転換したほうがよいので、そういう対応はよいのではないかと思う。</p> <p>合格率については、診療情報管理士試験は難しいので、それほど悪くないと思う。診療情報管理士が3万人になったが、今後は質の時代になる。これからは教育も卒業教育も専門分化していくことを頭に入れておいてほしい。</p> <p>これは情報だが、今、発展途上国が診療情報管理の世界でも頑張っているので、海外に卒業生が行く、海外の生徒を勉強させるという意識も持たれたほうがよいと思う。インドネシアでは、診療情報管理の学校が日本と契約したいと言っている。</p> <p>□退学者の話はうちの病院も系列の看護学校とダブらせて聞いていたが、最近は、少しレベルの低い子をとらざるを得ない状況で、先生方は苦勞されていると思う。面接をしてもなかなか見抜けないが、早稲田速記さんから来られた方は、以前と比べて少し元気はないが、今回入った子は頑張ろうというハングリー精神がある。何でも与えられて育った環境の人より、自分で学費を払っている人のほうが、就職してからも頑張りがきくという印象を受ける。</p> <p>医師事務作業補助は、先生について文書作成を主にやっているが、先生に育てられるような状況なので、法律的な領域については予めきちんと習えるとよいかと思う。</p> <p>インターンシップについては、中小の病院としては、退職者との引き継ぎもあることから、出してもらえなら出してほしい。その辺の折り合いがうまくつくとうよいと思う。</p>	<p>□ご意見として伺った。</p>
--	--------------------

(中長期的な計画に関して)

質問・意見	回答
□毎回思うことだが、医療機関も福祉施設も、また日本の社会保障制度も含めて外部の環境が大	□中期計画は5年のものを立てている。現在3年目だが、教育をとりまく環境変化が当初予測

<p>幅に変わってきている。その環境の変化に対応した2～3年の中長期的な計画はあるのか。</p> <p>□医療機関では、地域医療構想というものが2018年からスタートする。それによって病院の中身が変わってくるので、学生さんに求められるものも変わってくる。この学校がどこのレベルの医療機関、どこの福祉をターゲットに最終的に人を育てていくのかというところが、3年～5年以内に大きく変わると思うが、果たしてそういうことがわかるようなパンフレットになっているだろうか。例えば、ここを卒業すると大体どの辺のところに就職して、それから5年、10年するとこういう自分の人生設計ができるというところまでが、残念ながらこのパンフレットではわかりづらい。</p> <p>同時に、退学者の中に、自分の将来が見えないという人たちの本能みたいなものが働いているような気がする。そうすると、来年どうするかというのも必要だが、3年、4年、5年後に送り出す先の医療機関や福祉施設がどうなっているのかをある程度学校側がイメージしていないと、そこまで突っ込んだ話はできないと思う。逆に、それが適切に教えられれば、いろいろなことが解決していくのではないかという気がした。</p>	<p>したものよりも激しいので、学園としては新たな中期計画を12月までにつくり直す予定にしている。</p> <p>□外部環境が変わっていることは痛感するが、一方で、教員が外に出て研修を受けたり、現場のことを知る機会が持ちにくいという現状がある。案内書では自分の未来のイメージがつかみづらいとの指摘もいただいたが、アドミッション・ポリシーからディプロマ・ポリシーに至るプロセスの再確認は、まさにそういう意味で課題として挙げている。</p>
--	--

(教員の研修に関して)

質問・意見	回答
<p>□外へ行って先生方が何かを感じてくることは大事だと思う。例えば、やる気満々なインドネシアの学生の様子を見ることで、先生方が刺激を受ける。生徒の質を上げるためにも、まず先生方に余裕と勉強の場を与えたほうがよい。</p>	<p>□先週の水、木、金で行われた国際ホスピタルショーには、授業時間内でもあり、医療秘書科の教員が1名だけ参加した。本来なら、教員だけではなく学生にも見てもらえばよかったなど痛感している。今後は、学生に迷惑がかからない程度に授業時間の幾つかを移動させて、外部の研修に参加するような仕組みが必要ではないかと思っている。また、学内で年2回行っている教員研修は、面白いテーマで、魅力のある研修内容にしていきたい。</p> <p>教員は、医療の最前線から離れて何年もたっている。医療マネジメント科では、今年度の教員研修として医師事務作業補助者の現状を学ぶための病院訪問を学科長にお願いしている。</p>

<p>□ホスピタルショウは、企業展示とか技術的な面に偏っているので、現場の先生にとっては日本病院会の病院学会とか、私たち国立病院機構の学会などのほうが勉強になると思う。</p>	<p>□今回の医師事務技術専攻科開設に当たって、初めて医師事務の仕事について現場の人に来てもらい講演会を実施した。現場の方に来ていただくだけでなく、逆に現場に出ていくことは特に教員にとって重要だと思うので、研修については時間をつくるための工夫を大いにしていきたい。</p> <p>□専門学校の教員にとっては研究が大きなテーマになっていないので行きにくい面はあると思うが、現場の空気を感じることは大事だと思う。特に医療事務は外の環境が変化しているので、教員は積極的に外に出て、それを学生に伝えてもらえればと思う。</p>
--	---

○学科からの質問と意見交換の概要は次のとおり。

(医師事務作業補助者に関して)

学科からの質問・意見	委員の回答
<p>□先ほど須貝先生から、医師事務作業補助者の定着率が低いというお話があったが、去年、医師事務作業補助者の内定をいただき、インターンで出た学生の中で2～3人が仕事内容に戸惑ったり、自信をなくしたことを理由にドロップアウトして帰ってきた。今後も早期勤務の形で求人に来て、後期途中からいなくなることを考えると、このカリキュラムでよいのか気になっている。</p> <p>□特に医療秘書科は、その点が十分ではないと思う。</p> <p>□実習病院を回ってみるといろいろな病院があるが、幾つかの病院では、宙ぶらりんな存在ではなく、医師事務作業補助者をきちんと確立させて、そこに有能な管理職をつけてより質の高い医</p>	<p>□医師事務作業補助者について学校側がよく理解させていけばよいと思うが。</p> <p>□医師事務作業補助者は、組織の中でまだ確立していない部分もあることから、働く環境が思ったほどよくないと思うので、やはり事前に見たほうがよいかもしれない。</p> <p>□2年プラス1年で、3年かけているのであれば、病院の中でのポジションとして診療情報管理士のほうがよいと思う。医事事務作業補助者の技術は現場の方が欲しい、働きながら身に付けていく力ではないかと思う。学校でやるのだとすると、本当にスペシャリストにして育てること。</p>

師事務を育てる体制のある病院が出始めている。そこに就職させることを狙っているので、きちっと仕上げて送り出したい。診療情報管理士が医師事務に回っているケースも結構ある。これは医学知識の部分で同じレベルが必要になるからだと思う。

□新しいことをやろうとするといろいろ壁はあるが、送り出した後のフォローや、メンタル的なところのフォロー体制は学校の中でも具体的に考えていきたい。

以上